

氏名	森脇 繁登
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第449号
学位授与年月日	平成28年2月5日
審査委員	主査 教授 熊倉 俊一
	副査 教授 並河 徹
	副査 教授 中村 守彦

論文審査の結果の要旨

我が国の急速な高齢化に伴い、介護保険サービスの利用者が急増している。特に、訪問看護や短期入所生活介護を利用する者は、介護保険制度の創設時に比べ、現在では約2倍に増加している。申請者は、訪問看護と短期入所生活介護の利用に影響する要因を明らかにするため、被介護者及び介護者の特性と介護の負担感についての関連を検討した。2009年から2014年に島根県A市の訪問看護ステーション2事業所を新規に利用した要介護者を対象に、被介護者の情報（年齢、性別、介護期間、要介護度、要介護度認定疾患）及び介護者の情報（続柄、仕事、副介護者）について面接調査を行った。また、介護者の介護負担感を評価するために全22項目からなる日本語版Zarit介護負担尺度（Japanese version of the Zarit Burden Interview, 以下J-ZBI；各項目5段階評価）を用いて、介護を必要とする状況への感情的負担（Personal Strain, 以下PS）と介護による社会生活に支障を来す程度（Role Strain, 以下RS）を評価した。その結果、訪問看護を利用した103名のうち、短期入所生活介護利用者群（n=43）は、非利用者群（n=60）に比べ、平均年齢が低く、介護者が仕事を有する割合が高く、また、副介護者が存在する割合が低いことが示された。また、利用者群は非利用者群に比べ、介護者のJ-ZBI合計、PS、RSの評価値が有意に高く、介護負担感が強いことが明らかとなった。多変量解析にて、短期入所生活介護の利用とJ-ZBI合計、PS、RSの評価値は正の相関を認め、また、介護による社会生活の負担感が高いこと（RS評価値）、年齢が低いこと、副介護者がいないことが短期入所生活介護の利用に影響する因子として同定された。

本研究は、介護保険サービスを利用する被介護者と介護者の特性及び利用に影響する要因を明らかにしたものであり、介護福祉分野の発展に寄与すると考えられる。